

# 地図帳 活用相談室

<10>

地図帳では、いつも地名を確認するだけ、統計で順位を調べるだけとなり、地図や各資料を組み合わせて活用することがなかなかできないのですが…。

回答者

東京学芸大学名誉教授 ● 次山信男

「～するだけ」から、  
「～と～をつなげる」学びを！

はじめて地図帳を手にした子どもたちのようすを見ていると、自分の住んでいる土地がどこにあるかを探しはじめの子、線路を指でなぞりながら鉄道を追いかける子、そして、ある子は、世界の図幅にある国旗に目をつけ、その色やデザインのとりになります。

この地図ではぼくたちの町はここだ！



この鉄道はどこへつながっているのだろう？



これらの姿は、いずれも「～するだけ」なのですが、“楽しさ”にささえられた子どもたちの“動き”です。実は、この“動き”の中に「～と～をつなげる」学習の動機も潜んでいるように思うのです。

地図帳で自分の住んでいる土地を確かめた子は、お父さんやお母さんの出身地や自分たちが旅行したところへと視点を移しはじめます。“点から点への展開”でしょう。鉄道を追いはじめた子は、やがて、その路線に沿うさまざまな絵記号に着目し、「ここは○○線、ここは△△線！」とニックネームをつけはじ

めます。“線から面への展開”です。

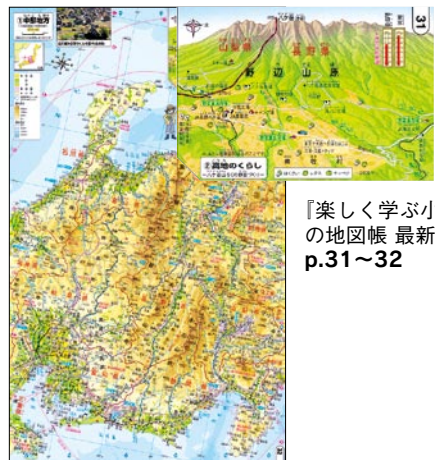
また、世界の国旗のとりこになった子は、地図と対応させながら“その国さがし”をはじめます。“点から面への展開”でしょう。

ここでの子どもたちの、“点から点、線から面、点から面”のような“動き”こそ、地図帳を構成している各内容を組み合わせて活用する学習の動機そのものではないでしょうか。

「八ヶ岳・野辺山原のレタス」を例に  
地図、資料の“組み合わせ”を！

ここでは、5年の「国土」の学習で、土地の高低によるくらしの特色をとらえる学習場面を例に、地図帳の「～と～をつなげる」活用を考えてみましょう。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）では、基本図「中部地方」の図幅（p.31～32）に資料図（鳥瞰絵図）「高地のくらし」を載せています。そしてこの図には、副題として「八ヶ岳山ろくの野菜づくり（野辺山原）」が添えてあります。これを見る



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』  
p.31～32

と八ヶ岳（赤岳）山麓の1375m（JR小海線最高地点）あたりから耕地や牧場がひろがり、耕地には、はくさい、レタス、キャベツが栽培されているようすが見取れます。加えて、野菜集荷場が3か所もあることから、その栽培のさかんなようすもうかがわれます。添えられた8月の平均気温を見ると20℃以下で、夏でもすずしいところが栽培に適しているのかもしれない。

これを見取った子どもたちは、この野辺山原がどこにあるか、どうしても知りたくなるでしょう。しかし、この「高地の暮らし」の資料図だけでは、この野辺山原が「中部地方」のどこにあるか、その位置はわかりません。

ここで、「おもな地名のさくいん」(p.76～81) の出番がきます。「野辺山原・32 オ～カ5～6」から、野辺山原が長野県と山梨県の県境にあり、JR中央本線としなの鉄道を結ぶ小海線の沿線にひろがる長野県の高原であると、その位置をつきとめていきます。

オ3	◎のべおか 延岡 [宮崎].....	20カ4	◎ひ
	◎のへじ 野辺地 [青森].....	44オ3	◎ひ
オ4	<u>◎のべやまはら 野辺山原・32 オ～カ5～6</u>		◎ひ
オ4	◎のぼりべつ 登別 [北海道].....	47ウ4	◎ひ
ア2	◎のみ 能美 [石川].....	31ア～イ5	◎ひ
エ7	●のむぎとうげ 野麦峠.....	32エ5	◎ひ
	●のさかんたん ざんげたん		

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.79

ここまで来ると、子どもたちは、「この高原の野菜づくりを、地図帳で取り上げているけれど、その生産は日本の中でどれくらいの位置にあるのだろうか・・・？」と、どうしても知りたいことが出てくるでしょう。この子どもたちの「どうしても知りたい！」という追究心に、地図帳はどこで、どのように応えられるのでしょうか。

「もくじ」(p.1) で見当をつけ、そして、実際にページを追ってみていきます。

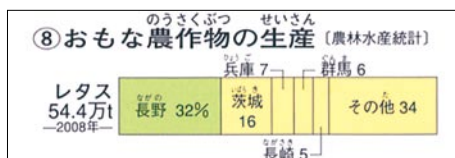
まず、地図帳p.67の「産業のようす」①「土



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.67

地利用とおもな農産物の産地」(資料図・分布)で、レタスが長野県に位置づいていることを確かめます。ここまでくると、子どもたちは、どうしてもその数量的な位置を確かめたくないのではないでしょうか。

そこで、地図帳p.73～74「日本のすがた」の⑧「おもな農作物の生産」(帯グラフ)でそれを突き止めます。2008年の統計では、全国のレタス生産54.4万tの32%を長野県が占め、2位の茨城県の16%を倍以上引き離しているのですから・・・。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.73

しかし子どもたちは、これで「高地における特色ある暮らし」を手中にしたわけではありません。これを土台にして、子どもたちの追究は、さらに「レタスの作物暦」などを通しながら、高地における農作業のすがたやくらしなど、その具体的な姿を求めて、さらに地図帳以外の資料にも触手「～と～をつなげる」をのばしていくのではないのでしょうか。いかがでしょうか。